

大学名： 玉川大学教育学部

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
<p>学校のユネスコスクール加盟を支援します。</p>	<p>1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。</p>	<p>東京都、神奈川県、千葉県のかなりの数の学校からユネスコスクール加盟支援についての相談を受けたので、現状を説明しながら、加盟手続きや加盟のメリット等について情報提供し、学校の「やる気」を維持するように努めた。</p>
	<p>2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。</p>	<p>チャレンジ期間実施校との接触は頻繁に持ち、カリキュラムや学習活動についてもできるだけ丁寧に相談に応じるように心がけた。ASPnet 加盟申請手続き（キャンディデート校制度も含め）について、今後の展望を含め、できるだけ学校現場に理解して頂き、意欲を維持して頂けるように工夫した。</p>
	<p>3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。</p>	<p>担当地域のユネスコスクール加盟校には教員研修会や出張講義（出前授業）等を積極的に行った。また ESD/SDGs を中心とした学習活動のあり方についてのレビューを行い、ユネスコスクールに求められる役割について、教職員との協議や説明会を行った。</p>
<p>大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。</p>	<p>1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。</p>	<p>八千代市の小中学校や町田市立南大谷小学校をはじめとして担当地域のユネスコスクールに対しては、学校側からの求めに応じて、ESD 教員研修会や SDGs 入門講座などをいくつか開催した。玉川大学のもつ教育資源・研究資源をできるだけ学校現場に効果的に提供できるよう心がけた。</p>
	<p>2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。</p>	<p>第1回、第2回の成果をふまえ、2022年7月31日に創価大学で開催される「第3回ユネスコスクール関東ブロック大会」にて、大妻中野中学校高等学校と共同で高大連携ワークショップ（分科会）を開催する予定である。また、東京都立山崎高等学校、淑徳 SC 中等部高等部および八千代市立の小中学校数校との共同ワークショップも実施計画を進めている。</p>
	<p>3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。</p>	<p>地元の町田市・相模原市の学校との協働で、SDGs や ESD, GCED, 「平和と非暴力の文化」を含む「ユネスコ検定」の開発を進めている。教材としての活用とともに、ユネスコスクールとユネスコ協会との連携強化の資源としての活用も視野に入れている。</p>
<p>地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。</p>	<p>1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。</p>	<p>町田市教育委員会および町田市議会にてユネスコスクールについての説明会を行った。また東京都ユネスコ連絡協議会の研修会および青年研修会にてユネスコスクールについての実践報告と広報を行った。</p>
	<p>2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることが</p>	<p>東京都ユネスコ連絡協議会の「2000人プロジェクト」にて玉川大学が提唱した3つのプログラムを通じて、首都圏における多様なステークホルダーとユネスコスクール</p>

	できた。	をつなげる試みを多角的に行っている。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	多摩市教育委員会とはユネスコスクールに関する基本協定を結び、地域連携を進めている。京都外国語大学とは ASPUnivNet ネットワークを活用して共同研究および大学間交流授業を実施しており、ユネスコスクール推進のための大学間連携の可能性を追求している。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	日本国際理解教育学会の公開研究会にてユネスコ本部職員諸橋淳氏との交流を行った他、ユネスコスクールの国際動向についての情報提供を目的とした「ユネスコカフェ」の実施を企画している。さらにユネスコスクール国際コーディネーターの斎藤珠里氏を講師にお招きした交流会を計画している。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	ユネスコ・バンコク事務所のアジア太平洋地域 GCED ネットワークの一員として、また APCEIU 主催のアジア太平洋 EIU 教員研修を通じて、とくにアジア太平洋地域のユネスコスクールと交流と協働活動を展開することができた。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	ユネスコ本部の実施する「グローバル ASPnet ウェビナー会議」等を通じて海外のユネスコスクールとの交流を行い、また Trash Hack などの国際協同プロジェクトにも参加している。また APCEIU が主催する「東北アジアの平和教育のための共同カリキュラム開発プロジェクト」に参加協力している。今後に向け定期的な交流や協働ができるよう海外連携ネットワーク作りを進めたい。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	教育学部のカリキュラムポリシーに「ESD/SDGs 学習の推進」が謳われたことを受け、教育学部内にユネスコスクール推進チームが結成された。また学部改革に向け、ESD/SDGs 学習の推進に焦点を当てた教師教育プログラムの開発を進めている。ユネスコスクールの学内広報は今後の課題である。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	現在、教育学部のゼミでユネスコスクールに関わる教育活動を行っている他、「総合的な学習の時間の理論と方法」および「世界の教育と文化環境」などの教職科目において ESD/SDGs 教育の指導力育成に焦点づけした内容が導入され、ユネスコスクール加盟大学としてのカリキュラム構築が進められている。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	ASPUnivNet 共同研究プロジェクトとして「ユネスコスクールにおける教職員の動機付けを高める要因に関する研究」を提唱し、福山市立大学、信州大学と協同しながら学校での聞き取り調査を進めている。ユネスコスクールにおける教育の質を高める要因として教職員の動機付けに焦点を当てた研究である。

	4. 自由記述	日本のユネスコスクールと世界全体の ASPnet ネットワークをもっと密接につなぎ、距離を縮めていく活動を行ってゆきたいと考えている。ユネスコ本部とも連携しながら、ASPUnivNet が先導して、SDGs 促進のためのフラッグシップ的な国際協同プロジェクトを創設できないものかと模索している。
--	---------	---